

など、そのほとんどがいくさ場での武勇伝、特に『シカも四つ足、馬も四つ足、シカの通れるところをどうして馬が通れないことがあろうぞ！』と、體経が家来の面々の先頭を切って、険しいがけ山を馬で駆け下りたという、世に言う「ひよどりごえの逆落とし」の場面など、末っ子の私は、母のひざに抱きかかえられ、手に汗を握りしめて聞き入っていたことを、この歳になつてもセビヤ色の写真でも見るかのように鮮明に思い出します。

当時は、今と違つて本など年に一冊貰つてもらえるかどうかという時代でした。勿論テレビなんてまだないときでしたが、父や母、祖母が夕食後や寝物語に「ことばの種を蒔き、ことばを紡いで」楽しいひとときを創ってくれたお陰で、豊かなときを過ごしたような気がします。

小学校に入学し、図書館に本がいっぱい並んでいるのを目撃したときは、仰天しそうなほどわらしかったことも思い出されます。

「ことばの種を蒔き、ことばを紡ぐ読書で心豊かな根っこが育つ」ことを、私は信じています。

旭小には、本好きな子がたくさんいます。子どもたちが、1冊でも多くの良書に出会うことを期待して、読書勉強を応援したいと思っています。



さて、可児市では、「子どものよさや可能性を引き出す・伸ばす・鍛える市民運動Educe9(エデュースナイン)」を開催し、その取り組みの一つに「うちどく(家読)10」運動があります。

「うちどく」とは、家庭で家族と一緒に目標を決めて、読書しようという取り組みです。

「10(テン)」という数字は、

- ・ 毎日、10分間以上本を読もう！
- ・ 1ヶ月に家族で10冊以上の本を読もう！
- ・ 1年間に一人10冊以上の本を読もう！

というように「うちどく」のやり方は、家族で自由に決めることができます。

また、ケーブルテレビでは、家庭で楽しめる本の紹介がされたり、図書館だよりなども放送されたりしていますので、「うちどく(家読)10」の参考になると思います。ぜひ、それぞれのご家庭で思いお思いの「うちどく(家読)10」を始め、コミュニケーションと家族の絆をさらに深めていただけることを期待しています。

！今年度も図書ボランティアの読み聞かせがはじまりました！

毎月、第3木曜日は、子どもたちがとても楽しみにしている図書ボランティアの方による読み聞かせです。今年度も5月20日(木)をスタートに下記の14名の図書ボランティアのみなさんによる読み聞かせがはじめました。図書ボランティアの皆様、本年もどうぞよろしくお願いします。

＜平成22年度図書ボランティアの皆様＞

飯田 結香さん、今井美都子さん、今枝一美さん、日井ゆきえさん、藤村真弓さん

今 記子さん、田村由美子さん、殿垣聰子さん、中林 術美さん、長谷川千穂さん

古山 啓弘さん、水野 清枝さん、米田みどりさん、菊田 弘美さん



どの子も本の世界に入り込み、心の中では「ことばを紡ぐ」ことがはじまっています。